

科目名 (Eng)		異文化コミュニケーション入門(Cross-Cultural Communication)							
担当教員		芥川一則							
対象学年等	学科・専攻	学年	授業期間	区分	単位数	時間数	分野	形態	学修単位科目
	コミュニケーション 情報学科	4	後期	必修	2	(30)	専門	C	○
目標基準 との対応	福島高専の教育目標との対応:(D-3), (D-4), (F-5)								
	卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6)								
	JABEE基準1(1)との対応:d-(1), d-(3), (f), (g)								
授業の概要と方針		個人の異文化との遭遇体験をもとに、違った文化との接し方について学ぶ。国内であっても地方により文化は違ってくる。本講座では企業内に存在する文化について学ぶ。							
到達目標		①個人の価値観の概要を理解する。 ②企業文についての概念を理解する。 ③就職活動を事例に各人が企業との接し方を習得する。							
授業計画									
	週	授業項目	理解すべき内容				事前学習		
後期	16	導入	授業の進め方および授業で取りあげる事例の背景を理解する。				教科書を読んでおく。		
	17	事例の背景の理解	事例対象国の状況を理解する。				対象国について調査する。		
	18	事例(1)	文化の背景にあるものを理解する。				事例1を事前調査する。		
	19	事例(2)	文化における矛盾を理解する。				事例2を事前調査する。		
	20	事例(3)	外部者の目からみる日本を理解する。 その1				事例3を事前調査する。		
	21	事例(4)	外部者の目からみる日本を理解する。 その2				事例4を事前調査する。		
	22	発表(1)	4つの事例から得た知見について意見を発表する。				発表内容の作成		
	23	発表(2)	4つの事例から得た知見について意見を発表する。				発表内容の作成		
	24	事例(5)	企業文化について理解する。 その1				事例10を事前調査する。		
	25	事例(6)	企業文化について理解する。 その2				事例13を事前調査する。		
	26	事例(7)	企業文化について理解する。 その3				事例22を事前調査する。		
	27	発表(3)	3つの事例から得た知見について意見を発表する。				発表内容の作成		
	28	発表(4)	3つの事例から得た知見について意見を発表する。				発表内容の作成		
	29	事例(9)	外部者からみた日本の若い女性を理解する。				事例15を事前調査する。		
	30	まとめ	事例に関する知見を意見交換を行う。				各事例を復習する。		
試験について		実施しない。							
評価方法		発表50%、課題40%、平常点10%で評価する。							
教科書		「喪失の国、日本」M・K・シャルマ、文春文庫							
参考書		『「甘え」の構造』土居健郎、弘文堂							
関連科目									
履修上の注意		事例研究形式の授業となりので、事例は授業前に必ず精読しておこと。自学自習の確認方法:課題プリントを学生に配布し提出させる。							